

居心地のすゝめ



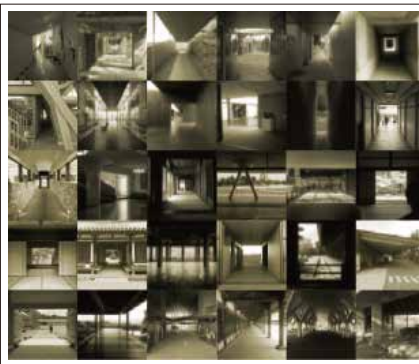
00

本研究は居心地の良い空間の価値を再認識し、現代社会における価値の転換を行うものである。



01

写真は慈光院道院の院内写真。深く暗い落ちついた内部空間から、外の庭園、遠景の山々までを見渡す風景。私が一番居心地が良いと思う空間である。外観写真からわかるように外からは内部空間を知ることが出来ない。



02

居心地の良い空間の価値を再認識するにあり、同じように居心地が良いと思う空間を集める。実際に訪れたことのある建築空間、外部空間より写真を選定。空間の特徴を分析していく(居心地分析本参照)。

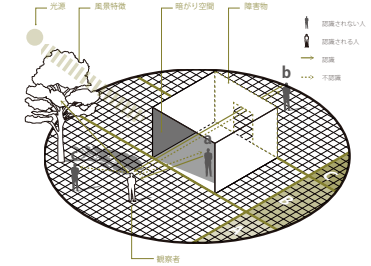


暗がり空間から明るい空間を見る。
Jay Appleton
風景の経験・景観の美学について - 「視覚的地理学論」

同一空間上に2つ以上の空間が存在する。
Colin Rowe
「マネリスムと近代建築」
『透明性-美と権』

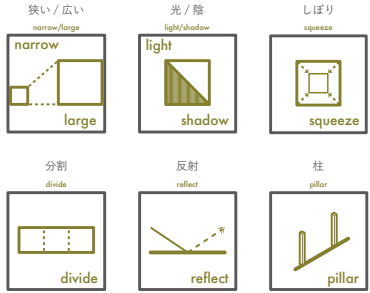
03

居心地の良い空間から二つの特徴を見つけた。
1. 暗がり空間から明るい空間を見る。 2. 同一空間上に複数の空間が存在する。
これら二つの特徴は二つの空間論として議論することが出来る。
空間論より認識されない空間であることが多かった。



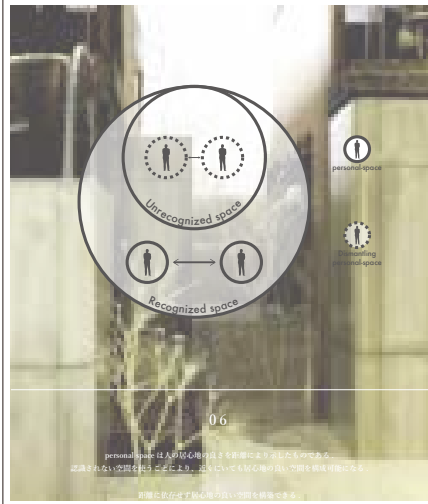
04

認識されない空間は光と空間の距離により構築可能で、大きく3パターン存在する。
a. 暗がり空間 b. 光の反射率の違い c. 同一空間上に複数の空間特徴を用いる。
これらにより認識されない空間は構築可能。
居心地の良い空間は認識されない空間より構築されている。認識されない空間は光と距離により作られる。



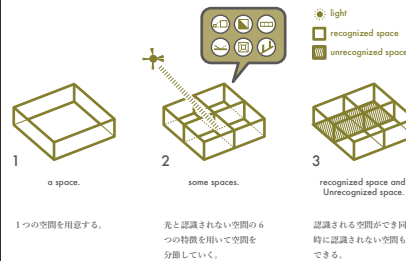
05

次に認識されない空間がどのように構築されているか分析する。例に挙げた30の居心地の良い空間から6つの空間特徴を見つけた。
1. 狭い/広い 2. 光/影 3. しぼり 4. 分割 5. 反射 6. 柱
この空間特徴を用いて認識されない空間を構築し、居心地の良い空間を作っていく。



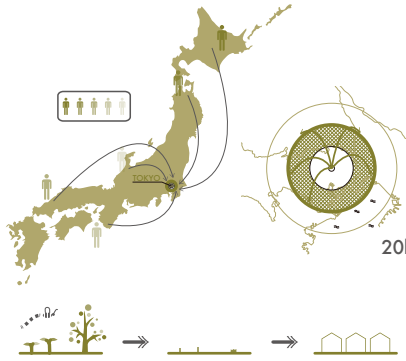
06

personal space: 人が居心地が良い空間を構築するに必要となる空間である。認識されない空間はここにより、近しい居心地の良い空間を構築可能になる。
距離に依存する居心地の良い空間を構築できる。



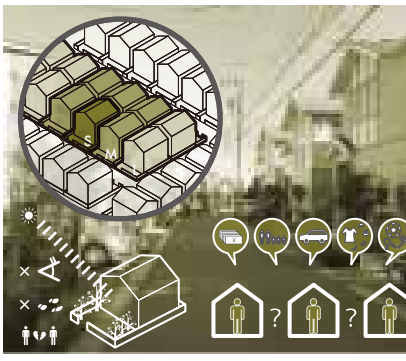
07

1つの空間を用意する。
2 光と認識されない空間の6つの特徴を用いて空間を分割していく。
3 認識される空間ができ同時に認識されない空間もできる。
認識されない空間の作り方。
ある空間に対して光を入れ込む、明るい空間と暗がり空間を作れる。暗がり空間が認識されない空間になる。認識されない空間と同時に明るい認識される空間も構築される。
認識されない空間を作るには隣接して認識される空間も同時に作る必要がある。



08

郊外、東京一帯集中が未だに加速する現状、地方都市から多くの移住者が東京に押し寄せると。
しかし、東京の中心部は地価の高騰により住まうことが出来なくなる。
そこで都心圏縁部には住まい始めることが発生。
巨大インフラの開発により、駅前周辺部が開発が行われ同じような町並みを構築する。



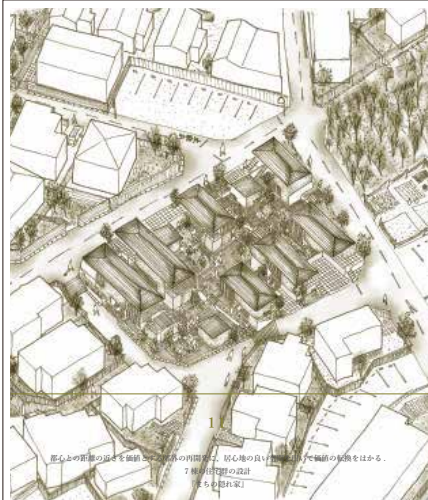
09

同じ住宅が立ち並ぶ郊外では、同僚者、同世代、の家族が自然と集まる。
近さを価値とした住宅地は希薄であり、距離性に対して用いることで関係性を解決している。
多くの人が集まっているのに周囲からの活動が表出されず寂しい町並みとなっている。
郊外では3段階の孤立が深化する。1. 家族内 2. 近隣内 3. 近隣外 である。



10

これを組み合わせ、空間の計画を、認識されない空間を用いて解決していく。6つの空間特徴をそれぞれスケールに依存して活用していく。街区を構築する。



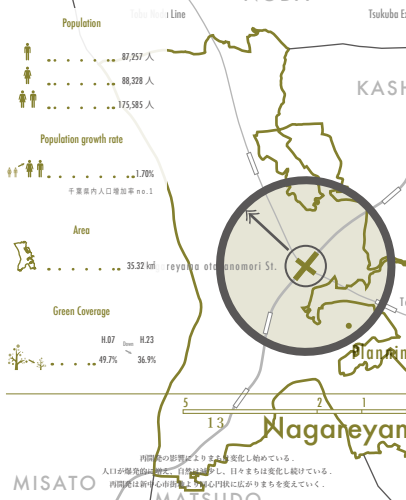
11

居心地の距離感を構築する。都市の計画は、居心地の良い空間を構築する。都市の価値を注ぐ。7棟の共同設計(まちおこし家)



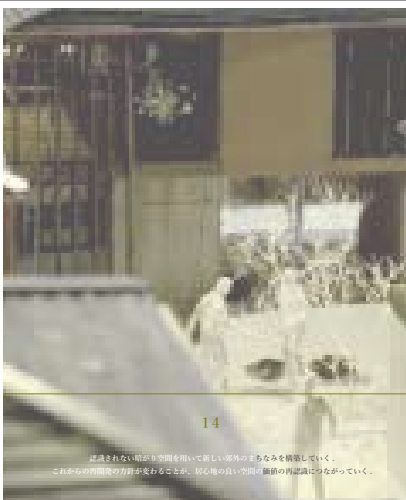
12

都市計画の計画により、都市の計画は、居心地の良い空間を構築する。都市の価値を注ぐ。7棟の共同設計(まちおこし家)



13

人口が減少する傾向は、自然に発生し、日本では変化し続けていく。民間は都市中心部より、都市の計画は、居心地の良い空間を構築する。都市の価値を注ぐ。7棟の共同設計(まちおこし家)

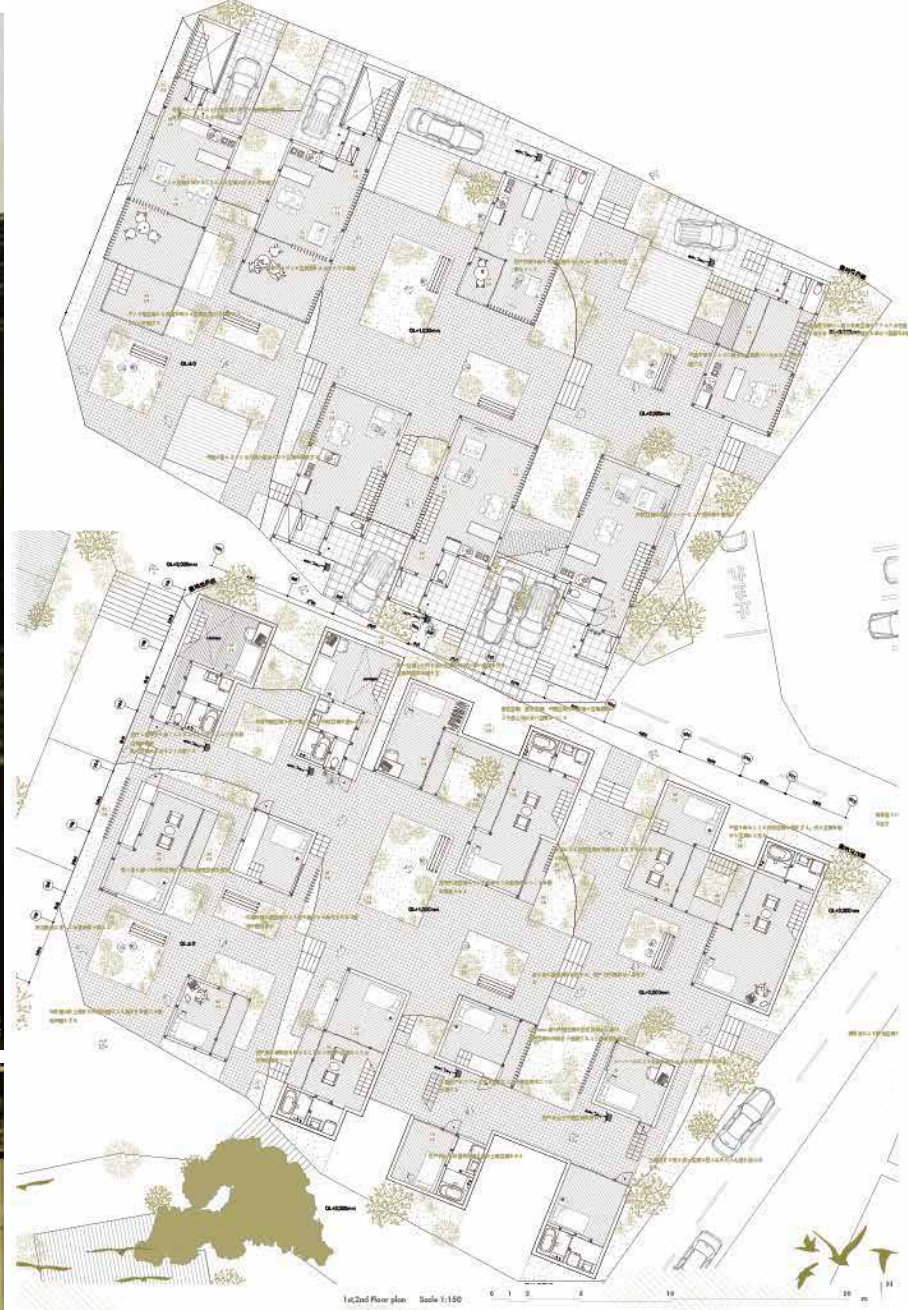


14

認識されない暗がり空間を用いて、居心地の良い空間を構築していく。これらの空間の構築が出来ること、居心地の良い空間の価値を再認識している。



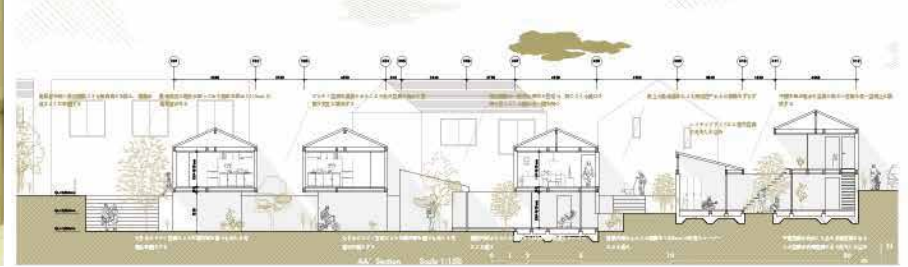
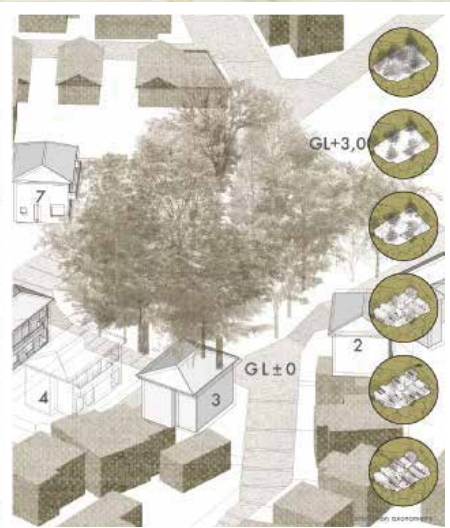
Figure 1-10: A courtyard with a dark, perforated facade and a balcony with vertical slats. The courtyard is landscaped with several white, bare trees and a wooden bench. A white mannequin figure stands on the left for scale.



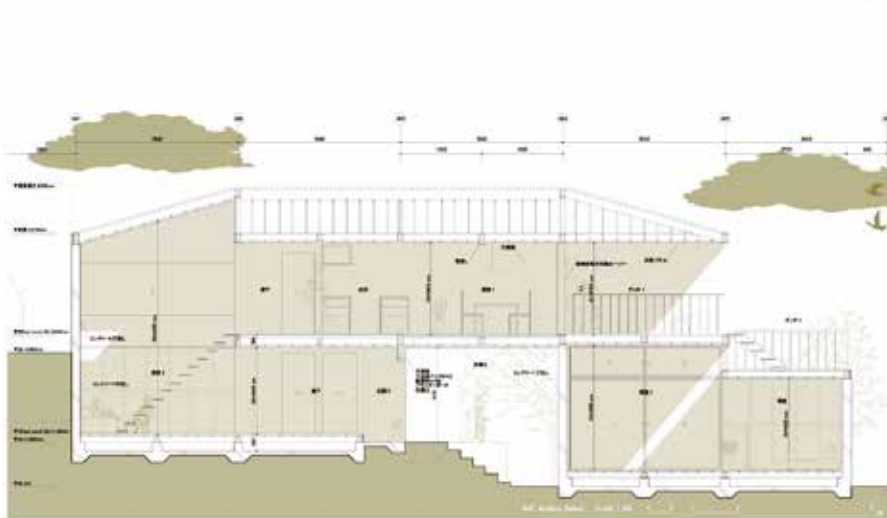
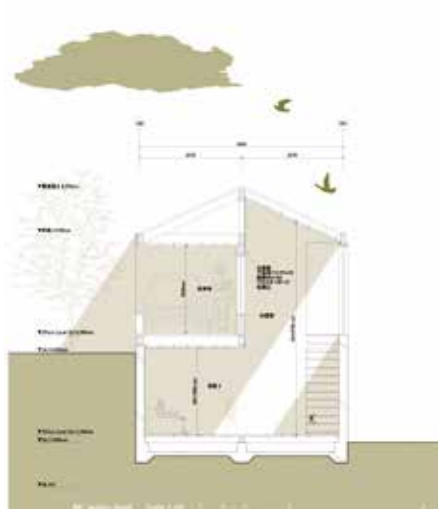
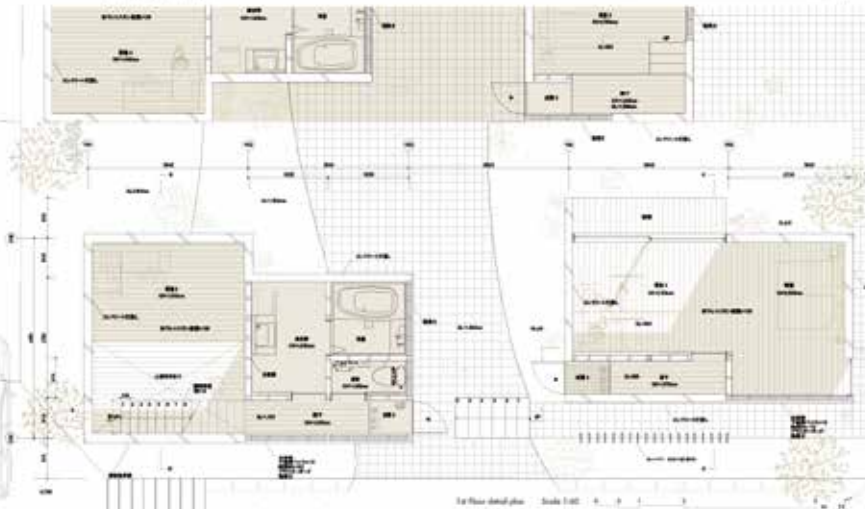
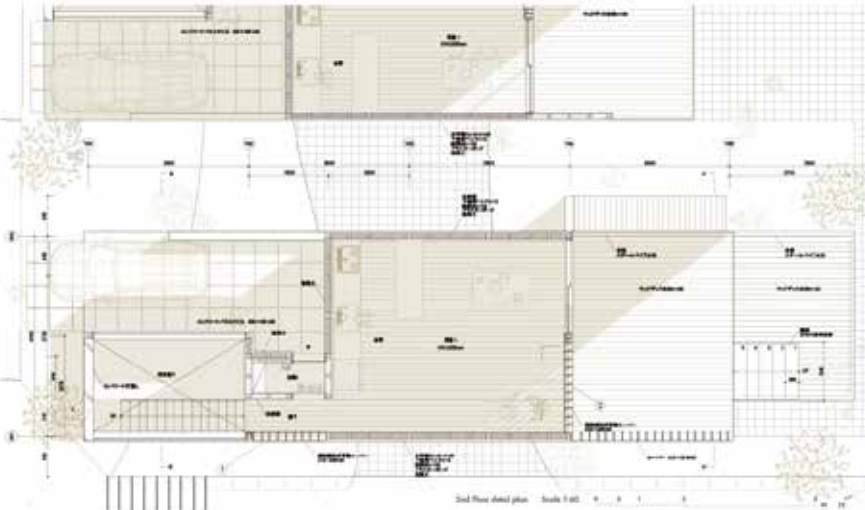
1st/2nd Floor plan Scale 1:150



Site plan Scale 1:2,000



Section Scale 1:150





建築家・Tadao Andoの造り出す「光と影」の対比。建物の外観は、光と影の対比によって、空間の奥行きが感じられる。建物の外観は、光と影の対比によって、空間の奥行きが感じられる。

